

アイリックとユーザーサクシステム

課題解決の切り札として注目される  
火災保険RPA見積システムの活用解説

業法改正対応へ、見積業務の自動化に注目

改正保険業法  
への対応を見据  
え、保険代理店  
の業務効率化が  
急務となってい  
る。特に火災保  
険分野では、満  
期契約の増加に  
加え、複数社比  
較見積もりの必  
要性が高まり、  
現場の事務負担  
は一段と重くな  
っている。こう  
した課題解決の  
切り札として注  
目を集めている  
のが、RPA  
(ロボティック  
・プロセス・オートメ  
ーション)による見積業務  
の自動化だ。



川村氏

務に集中する時間を生み  
出す「基盤」と位置付け  
る。保険業界では見積作  
成のほか、データ転記、  
帳票作成、バックオフィ  
ス処理などへの展開余地  
が大きいとした。

改正保険業法  
への対応を見据  
え、保険代理店  
の業務効率化が  
急務となってい  
る。特に火災保  
険分野では、満  
期契約の増加に  
加え、複数社比  
較見積もりの必  
要性が高まり、  
現場の事務負担  
は一段と重くな  
っている。こう  
した課題解決の  
切り札として注  
目を集めている  
のが、RPA  
(ロボティック  
・プロセス・オートメ  
ーション)による見積業務  
の自動化だ。

両社は、保険代理店が  
直面する人手不足や業務  
高度化に対応するうえ  
で、見積業務の自動化を  
DX推進の第一歩と位置  
付ける。大量満期時代と  
業法改正が重なるなか、  
RPA活用の成否が、代  
理店の生産性と顧客対応  
力を左右する局面に入り  
つつある。今後、実務現  
場への定着度と運用ノウ  
ハウの蓄積が、普及  
の鍵を握りそうだ。

この動向を踏まえ、株  
式会社アイリックコーポ  
レーションとユーザーサク  
システム株式会社は1月  
27日、オンラインセミナー  
「業法改正にスピード  
対応！ 損害保険比較推  
奨のDX化とは？」を開  
催。第一部では、ユーザ  
サクシステムが開発した  
国産RPAシステムを、

アイリックコーポレーシ  
ョンが乗合保険代理店向  
けにカスタマイズした火  
災保険RPA見積システ  
ム、第二部ではバックオ  
フィス全体のRPA活用  
の可能性が解説された。  
第一部に登壇したアイ  
リックコーポレーション  
ソリューション事業部の  
三村氏は、火災保険市  
場の構造変化を整理。2  
015年の最長保険期間  
10年化、さらに2022  
年の最長5年化により、  
2025年以降は満期契  
約が継続的に増加する見  
通しを示した。加えて業  
法、監督指針改正の動き  
により、従来以上に複数  
社見積の重要性が高まる  
可能性があるという。  
「大量満期は業務負担の  
増大要因である一方、新  
規獲得の好機でもある。  
事務作業を極限まで効率  
化し、顧客対応へ資源を  
振り向ける体制構築が急  
務」と強調した。

同社が紹介した火災保  
険RPA見積システム  
は、エクセルに物件情報  
を入力するだけで、各保  
険会社の代理店システム  
へ自動入力し、複数社の  
見積書を作成する仕組  
み。ヒアリングシート方  
式とリスト一括方式の2  
種類を用意し、単件処理  
から大量処理まで対応す  
る。

実行時は専用ソフトが  
Aは単なる省力化ツール  
ではなく、人が価値業  
務に集中する時間を生み  
出す「基盤」と位置付け  
る。保険業界では見積作  
成のほか、データ転記、  
帳票作成、バックオフィ  
ス処理などへの展開余地  
が大きいとした。



三村氏

両社は、保険代理店が  
直面する人手不足や業務  
高度化に対応するうえ  
で、見積業務の自動化を  
DX推進の第一歩と位置  
付ける。大量満期時代と  
業法改正が重なるなか、  
RPA活用の成否が、代  
理店の生産性と顧客対応  
力を左右する局面に入り  
つつある。今後、実務現  
場への定着度と運用ノウ  
ハウの蓄積が、普及  
の鍵を握りそうだ。

さらに両社は、対  
象保険会社の拡充や  
金融機関対応など継  
続的な機能強化にも  
言及。代理店の実務  
に即した改善を重ね  
ることで、現場定着  
を一層後押ししてい  
く方針を示してお  
り、今後の進化にも  
注目が集まりそう  
だ。

▼火災保険RPA見  
積システム・詳細  
ページ(下記参照)

